



埼玉支部報 第 22 号

【目 次】

安全登山講演会「アクシデントに対する安全技術」	1	JAC 南関東ブロック合同懇親山行	11
		《各種委員会だより》	
6 月月例山行「二子山～武川岳へ」	2	* 山行委員会活動計画	12
自然保護委員会「3 次玉原高原観察会」	3	* 山行委員会「ヘルメットを着用を」	13
第 2 回沢登り奥秩父「沢胡桃沢遡行」	3	* 安全登山委員会活動計画	13
7 月月例山行「中ノ俣ルート～平ヶ岳」	4	* 自然保護委員会活動計画	14
8 月四季の山・夏山「鳥海山」	4	* 広報委員会「メーリングリスト	
2017「山の日」施行記念事業報告	6	(ML) の使用について」	14
9 月月例山行 箱根「明神ヶ岳」	7	会員数・異動、お知らせ	15
第 3 回沢登り 丹沢「水無川遡行」	9	OnePoint アドバイス (その 1) 「安全・	
10 月月例山行 伊豆「天城山」	10	安心・快適登山」	16

安全登山委員会主催講演会 講師：平川陽一郎氏
「アクシデントに対応する安全技術」 (9/20)
安全登山委員会 宮川美知子

日時— 9 月 20 日(水) 19 時～21 時
 場所— 浦和コミュニティーセンター10 階
 第 13 集会室 参加者 45 名(埼玉支部会
 員 19 名、一般 26 名)



講演内容— 埼玉支部会員で支部の山行委員でもある、日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡの平川陽一郎氏を講師に招き、山岳ガイドが考える安全な登山の観点から、「アクシデントに対応する安全技術」の講演があった。昨年 28 年度の山の事故は、転倒・滑落・道迷いの 50%を 60 歳以上が占めるという結果で、解決策として①技術②経験値のアップ③体力アップのトレーニング④行動中のまめな水分・カロリー補給⑤早めの装備更新等が大事であると強調した。また、過去の遭難事例をあげて、安全登山の基本は、①人(参加者の状況)②登山ルート③気象を配慮した行動が必要と説明があった。道具としてストックの使用方法やザックの背負い方、また近年、雷は 1 年中発生しており、この情報も電力会社から得ておくことも必要であるとアドバイスがあった。最後に終了時間いっぱいまで質疑応答があり充実した内容であった。

※当日のアンケート結果は日本山岳会埼玉支部ホームページに掲載されています。ご覧下さい。

6 月月例山行**「二子山から武川岳へ」 (6/4)****【山行グレード ☆☆】****会員 花崎千恵**

年齢差約30歳の男女10名が準備体操後芦ヶ久保駅を出発。少し歩くと暗くて低いトンネルが出てきた。皆さんと一緒に平気ですが、一人だったらここでダッシュかもしれません。(笑) 最初は沢沿いですが長くはありません。鳥の囀りと水のせせらぎに心を癒され久しぶりの山行に心ウキウキです。熊さんが出てこないことを祈って……。ここからは傾斜もきつめであり、結構長い距離だがロープがしっかりついているので助かります。二子山雌岳に着き一息つくとはどなく7~8分で雄岳(882.7m)に着きました。

**二子山への登り**

新緑も鮮やかで武甲山が真近に見えます。次のポイント焼山からも武甲山の眺めが見事です。両神山も見つけた！ここで30分のお昼休憩をとります。山の頂上でお湯を沸かして飲むコーヒーは絶品です。その後、一旦林道に出てまた登山道に戻ります。小さな登山者たち(未来の日本山岳会のメンバー?)が、こんにちは！と大きな声で挨拶してくれたのは嬉しかったなあー。どこかの幼稚園の遠足かな？落ち葉の絨毯を歩くと蔦岩山に着きます。ここまで来ると山道のアップダウンにも足が慣れてきて、次のポイントにワクワクしてきます。山ツツジや二人静など貴重な植物

の説明も伺えて楽しさも増してきます。

**武川岳山頂**

武川岳(1052m)に到着した時は参加メンバー達も笑顔になっていて和やかないい雰囲気です。南側の眺望は素敵です。休憩後、天狗岩方面に下山します。天狗岩コースは上級??との道標に天狗岩への想像が大きく膨らんでひょっとしてロッククライミング?などと考えてしまいます。うーん、練習してないけど大丈夫かな?とまで。しかし、気持ちはワクワク!少し歩くと傾斜がきつめですが、疲れは其れ程でもなく鹿避けネットに沿ってしばらく下ります。いよいよ天狗岩到着。一目見て、えっ? ロッククライミングという感じでは無く岩穴に熊さんがいるかもしれないので、覗かないようにしようと、気持ちが変わって。練習無しのロッククライミングは、やはりあり得ませんね(笑) 岩場を少し下りると名郷に下ります。たけのこが道に落ちていたり、これは猿さんのお昼かな?と思ったり、そうこうすると名郷バス停まで1キロの道標がありました。もう少し山に居たい気持ちを抑え、階段を下りると西山荘があり、沢の横を歩いて間もなく名郷BSに着き、名郷発15時56分のバスで帰路に着き、心地よい疲れ具合で楽しい日帰り山行でした。

自然保護委員会

「第 3 次玉原高原ブナ林・吹割の滝溶結凝灰岩観察会」(6/10.11)

自然保護委員会委員長 高嶋徳紘

参加者：埼玉支部員 11 名・山の会すかんぽ 7 名 計 18 名で実施した

第 1 日：上越線「沼田駅」11 時 30 分集合、レンタル中型バス 21 人乗りにて玉原高原行 標高 1200m の溶岩台地・ビジターセンターにて昼食後ブナ林観察(直径 1~3m100 年~250 年生の大群落地理的に太平洋側だが日本海型 植生でイヌブナは生育していない) 朝日副委員長が雷雲をキャッチ小雨と冷風が降りて鹿 又山分岐で引き返す往復 150 分。玉原湿原は 木道工事で進入禁止。急遽、迦葉山弥勒寺へ 変更、徳川幕府祈願所へ参拝日本一の天狗の 面にビックリ！



溶岩台地の「玉原高原」

第 2 日：川場温泉源泉の宿から 5 分で名古屋、臨濟宗・吉祥寺(鎌倉建長寺が本山)へ、クリンソウ満開。極め付は 18 名全員が御住職による表千家の茶道のおもてなしを戴いたことでした(正座はきつい) 全員、カシコマッテ有難く頂きました。その後は溶結凝灰岩の天然記念物 900 万年前の巨大火砕流で出来た吹き割れの滝をじっくり観察し、年間 8cm 上流に移動していることを学んだ。

【感想他】★レンタルバスでの移動(会員が運転)で、思う存分、あちらこちら、時間の許

す限りの移動は実に充実した 2 日間であった。

次回は第 4 次、錦秋で「雨乞い山」の予定がある！

★群馬支部とのコラボレーションも決まっている。

☆この両コースとも必見、お勧めです



溶結凝灰岩の「吹き割れの滝」

第 2 回埼玉支部沢登り山行

奥秩父西沢溪谷「沢胡桃沢遡行」(6/11)

【山行グレード☆☆☆】

会員、日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ

平川陽一郎

2 回目となる沢登りは、6 月 11 日に参加者 6 名で西沢溪谷にある沢胡桃沢を遡行しました。事前に下見を行った結果、沢胡桃沢は入渓者が少ないためか岩も滑り気味に加え、終了点から尾根までの詰めは、急斜面に乗っている全ての岩が浮き石と非常に危険な状態でした。困難には積極的にチャレンジしますが、明らかな危険は回避すべきと考え、今回は全ての滝を巻かずに登った後、滝を懸垂して沢を横切る沢胡桃沢橋に戻り林道に上がり終了、と言う沢登りの醍醐味を楽しめる内容にしました。

8 時 30 分西沢溪谷駐車場を出発。西沢溪谷は、新緑のシーズンを迎え親子連れやカメラ愛好者で遊歩道は賑わっていた。沢屋の姿は無くヘルメット持参は我々だけ、ハイキングの方から少々奇異な目で見られる。10 時 15

分沢胡桃沢出合手前、沢靴に履き替え ハーネスを付け身支度を調える。

10 時 30 分遡行開始。F1、F2 は入渓点より下にあるので通過し、連続するナメ滝を平川リードで登り出す、斜度はさほどでも無いがナメていて滑り易いので程良い緊張感が楽しい。F4、F5、F6 と同様に進む、途中で軽くシャワークライミングを楽しむ。又今年は温度が上がっていないので虫が少なく、沢に集中出来るので快適だ。

11 時～11 時 30 分昼食。 沢胡桃沢橋の下にて昼食を取る、木漏れ日が気持ち良い。12 時 30 分 最後の滝である F6 を登り終え、遡行はここで終了とする。3 回の懸垂で沢胡桃沢橋に戻る、沢用具を仕舞いシューズを履き替える。

13 時 30 分林道合流下山開始。歩き易いトロッコ道を下り駐車場に向かう。

14 時 50 分駐車場着。冷えた体を温めるために窪平温泉「はなかげの湯」で入浴。名物の「はくさい天井」を食べてそれぞれ帰路。途中、中央道の渋滞にはまり練馬に 21 時着く。

沢登りは今回で 2 回目となります。

今回は、沢登りの楽しさを第一として全ての滝を巻かずに登りました。

滑りの多い沢でしたので、安全のために全ての滝でロープを使用しました。

沢胡桃沢の詰めの状態が良くないため、安全第一とし途中で林道に上がりましたが、途中あえて懸垂下降を楽しんでもらいました。参加者も前回同様であり、スムーズに遡行が出来たと思います。

滝を直登するシャワークライミングし、ナメを歩き倒木をまたぎ歩く沢胡桃沢の苔むす溪は、正しく奥秩父らしい沢でした。

7 月月例山行

「中ノ俣ルートから平ヶ岳 (2141m) へ」
(7/1・2) 【山行グレード ☆☆】

会員 古川史典

梅雨の時期の山行で梅雨の中休みを期待し、12 人の会員が伝之助小屋に前泊し晴れること信じ、2 日目の朝を迎えたが、早朝よりドシャ降りの雨、見事に晴れの期待は裏切られた。しかし、登山口までと一縷の望みを託しバスに揺られた。しかし登山口である林道終点でも例年以上の残雪があり進むことができて万事休す。リーダーの「中止」と言う宣言を聞き、リベンジを胸に撤退した。



伝之助小屋前

8 月四季の山・夏山

「鳥海山 (2236m)」(8/4/6)

【山行グレード☆☆】

会員 轟 涼

6 月入会の轟と申します。出羽富士と称される鳥海山へ、高橋リーダーの元、女性 6 名、男性 4 名の計 10 名で、テント 2 泊の山行に行ってきました。7 月の平ヶ岳は天候不良につき中止で、今回こそはと祈りながらの参加でしたが、3 日間お天気に恵まれ素晴らしい山行となりました。

皆さん、ロングドライブの疲れも見せず、鳥海山湯の台登山口の麓の鳥海高原家族旅行

村キャンプ場に到着すると、あっという間にテント三張り、食事場のタープを立て、楽しくて豪華なすき焼きパーティーとなりました。もちろん、明日の早立ちに備えて、早々に就寝しました。



BC設営の様子

翌朝は、予定の5時前には出発しましたが、登山口の駐車場はすでに渋滞。ようやく停めてスタートしました。30分ほどで滝の小屋に到着し、朝ごはん休憩。小屋番の山形支部の方とご挨拶をかわし出発。そこでは、登りでも下りでも抜きつ抜かれつした地元の小学生と行き会いました。河原宿小屋跡周遊コースと登頂コースの二班に分かれて登るそうで、「来年は、登頂コースに行くんだ」と、男の子が話してくれました。雪溪のところで見た、お揃いの軽アイゼンは学校の備品でしょう



か？渡渉や雪溪歩きまである本格的な登山を、小学生のうちに経験できるなんて、指導者の方々のご苦労は察するに余りありますが、素晴らしいともうらやましいとも思いました。



渡渉あり、雪溪ありの緩やかでも長い登山道を、ときどき雲間から見える山頂方面と、百花繚乱のお花畑に癒され、(花は、大小、白・黄・紫・赤色ととりどりで名前も教えていただきましたが覚えきれません) 小学生にも元気をもらって進み、外輪山の伏拝岳 2130mに到着してお昼にしました。ここからは、これまでの山容とは違う岩の山頂、新山・最高峰(2,236m)が見えました。また、固有種の可憐な鳥海フスマ、濃い紫の大きな花が重たげな鳥海アザミも咲いていました。



新山・最高峰(2,236m)

外輪山の、三角点の手前で、膝と岩に不安のある3人にお留守番をしてもらい、7人で新山にアタックです。一度急に下り、避難小屋の横の雪溪を登り、岩稜を登って山頂へ一時間ほどで往復しました。

伏拝岳の下りに入る分岐で、予定時間が押していたため、先行炊事班6名と、膝痛&フォロー一班4名の二班に分かれ、下山を開始しました。

長い雪渓も軽アイゼンつけ、快適に進みます。厳しい岩の下りが続き、2Lの水を飲み尽くしたころ、河原宿小屋跡の雪渓が切れたところに水場がありました。子供たちがにぎやかに水と遊んでいます。「飲める〜？」と聞くと「飲めま〜す！！」と、水をくむ手がしびれるほど冷たい美味しい水が体に染みこみました。振り返ると、青空に、お花畑と雪渓を抱いた鳥海山が「お疲れさま」と見送ってくれたような気がしました。朝より水かさが増したような沢を超え、無事登山口に着きました。さあ！温泉に入って、食事の支度です。



この日のメニューは、スパゲッティとサラダとスープ。高橋リーダーの買い出しのセンスとご苦労を称賛しながら準備を進めました。そろそろ暗くなってきましたが、4人はまだ戻りません。暗くなってからの渡渉はさぞかし困難とだろうと心配していたところに、ヘッドンをつけ戻ってきて、本当にほっとしました。滝の小屋番の山形支部の方に誘導を受け無事に下山とのことでした。山の仲間のありがたさと素晴らしさを感じました。フォローのお二人（実は今回の最高齢）にも脱帽です。アクシデントをチームワークとリーダーシップで乗り越えた瞬間で、この後の宴会は大変楽しく盛り上がりました。

次の朝食は、ゆっくり8時としていましたが、皆5時には起きだし、テント干し、テン

ト撤収の練習までこなしました。全員で出羽三山神社にお参りして、無事帰宅を約束して解散しました。私たちの車は、国宝の5重の塔と、湯殿山神社にお参りをして埼玉に向かいました。初めてのテント泊山行でしたが、盛りだくさんでとても楽しく、またいろいろ感じる事の多かった山行となりました。皆さま本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

2017「山の日」施行記念

「小江戸川越夕涼み・トークショーとミニコンサート」(9/1)

主催：埼玉県山岳連盟「山の日」イベント
実行委員会委員 支部長 松本敏夫

日本山岳会埼玉支部の平成29年度「山の日」施行記念行事は主催する埼玉県山岳連盟「山の日」イベント実行委員会のメンバーとして参加しました。記念イベントは、平成29年9月1日(金)、18時〜21時、ウエスタ川越リハーサル室で開催され、一般の登山愛好家・埼玉県山岳連盟加盟の各山岳会員（日本山岳会埼玉支部から5名参加）約170名が参加しました。この記念イベントには（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会および（公社）日本山岳会埼玉支部が後援しております。



講演会・コンサート会場

埼玉県山岳連盟の石倉昭一会長の挨拶に続き、東京藝術大学非常勤講師の佐原敦子さんのヴァイオリン演奏「テーマ：自然を愛した

クラシック作曲家、前埼玉県警山岳救助隊副隊長の飯田雅彦氏・ヤマケイ登山総合研究所所長の久保田賢次氏および埼玉岳連名誉会長の田中文男氏による「山を安全に楽しむために」と題したトークショー、「はなみずき」によるフルート演奏（村松りほさん・松本千佳さん）&ピアノ演奏（鈴木園子さん）で「思い出の山の歌」の演奏と合唱で、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」を目的として制定された2年目の「山の日」を楽しみました。



ピアノ演奏・佐原さん



「はなみずき」の演奏風景



講師・来賓・実行委員

9月月例山行

箱根「明神ヶ岳（1169m）」

【山行グレード☆】

支部長 松本敏夫

小笠原諸島で一段と勢力を増した台風15号の影響でさいたま市付近では早朝まで雨降りであった。箱根の天候が回復することを祈りつつ、JR 湘南新宿ラインの車内で天気予報を確認しながら集合場所の小田原駅につく。大雄山駅に向かう車窓から外を眺めていると、雨はすっかり上がり、間近に迫る濃緑に覆われた山々の稜線の上空には青空がのぞき始めている。新編相模国風土記稿の足柄上郡・関本村の条に「最乗寺 大雄山と号す、曹洞宗、應永元年起立す。開山了庵は当国大住郡粕屋庄の人なり、名は慧明、了庵は其号なり。或時驚来たりて庵が袈裟を撮去り、当山の松樹に掛く、袈裟掛松と唱へて今に存せり。」とあり、最乗寺は相模国を代表する古刹である。また「道了権現社 圓通橋より石段三所を登て社前に至る。大天狗小天狗の二像を置、道了は舊了庵の徒弟たり、寺伝に拠に無双の大力にして、当山を開く時、師に力を合せ、一人にて大木大石を除き、其功少なからず、又師の為に、当山守護の誓願を発起し、慶永十八年、遂に天狗となりて、山中に住せり。」とある。天狗となって最乗寺を護る道了尊者（もともとは山伏です）の信仰が篤いことが推測される。



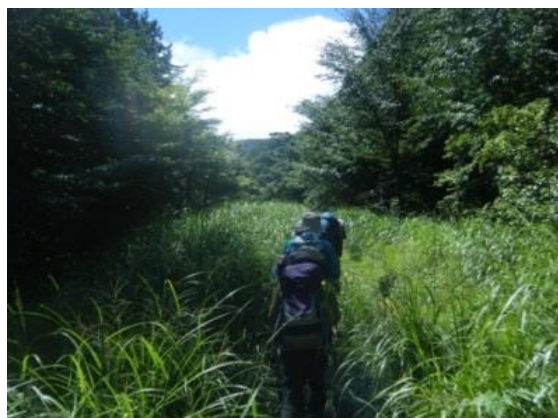
杉苗献木石碑

道了尊バス停の周囲には杉苗壺萬本献木碑（明治 37 年杉苗献木）などの石碑が多い。最乗寺の参道に向かって進むとみやげもの店（村上売店：元祖天狗せんべい）があり、店先を覗いてみると、天狗土鈴（1000 円）がたくさん並べられている。

参道を進み、瑠璃門から最乗寺本堂・書院にでる。本堂の左手奥から碧落門をくぐると大きな和合下駄（赤色）のあり、明神ヶ岳登山口にでる。

道標に従い登山道に入ると 12 体の石仏が並んだ場所に出る。最乗寺からはほら貝の音や太鼓の音が聞こえてきて、深山幽谷の風情が感じられる。豪雨のためか赤土の登山道がすっかりと洗われ、木々の根や岩が露出し、急登の登山道は歩きにくい。夏草に覆われた道標「最乗寺－明神ヶ岳・明星ヶ岳」を過ぎると林道にでる。鬱蒼とした樹林帯の尾根を上ると、地形図に記載の送電線を頭上に確認しながら、2 本目の林道にでる。

明神ヶ岳見晴小屋は三角屋根の今にも倒壊しそうな白い小屋で、古びた長椅子が 2 脚置いてある。見晴らしと名付けられているが展望は今一つか？ 数十メートルの幅で刈りはられて明るいカヤトの尾根道を進むと、左側に放棄された鉄骨のリフト（？）が所々に



ススキの尾根

残されている。ススキが両側から覆いかぶさり、足元が見えない状況である。神明水は塩化ビニールのパイプからチョロチョロと水が流れていてあまり冷たくない。



神明水

更に登ると左手に相模湾が遠望できる開けた場所にでる。沢筋にある神明水は神明水よりも水量が多く冷たさを感じられる。山腹を巻きながら登ると明星ヶ岳と明神ヶ岳との分岐にでる。ここから少し登ると一気に視界が開け、展望のある明神ヶ岳山頂にでる。山頂からは箱根山、愛鷹連峰、金時山の展望がよく、富士山は山頂の一角のみが確認できた。見晴らしの良い明神ヶ岳の山頂には「明神ヶ岳は古期外輪山の一つです。南足柄からこの山を越えて、宮城野の碓氷峠に下る道は日本武尊東征も道と考えられています。(箱根町)」の説明版がある。道了尊から宮城野への道は日本武尊の伝説を残す古来の峠道であった。



明神ヶ岳山頂

明星ヶ岳に向かって下り始めると道標「最乗寺－明星ヶ岳・宮城野－明神ヶ岳・金時山」が現れ、相模湾が一望できる。予想外に急な下りを一気に降りると前方に明星ヶ岳へと続く稜線が確認できた。下山口での到着時刻を

考慮して、道標「宮城野 40 分ー明星ヶ岳・宮城野 110 分ー明神ヶ岳 45 分・金時山 175 分」から直接宮城野へ下る道を選択する。樹林帯を下り、別荘群の塀を右手に見ながら掘割状に抉れた登山道をまっすぐに下り、約 1 時間で宮城野登山口（車道）についた。勘太郎の湯で箱根の温泉気分を十分に味わい、伊豆箱根バスで小田原駅に戻る。駅前の「夢庵」で懇親を図り、小田原駅から帰路に着く。

【記録】

日時：平成 29 年 9 月 2 日（土）、雨後晴れ
メンバー：CL 松本敏夫、SC 古川史典、右川清夫、橋本久子、米山英三、（5 名）
コース記録：道了尊バス停（9:12）～最乗寺（9:30）～和合下駄・明神ヶ岳登山口（9:41）～林道（10:16）～林道（10:56）～見晴小屋（11:04）～神明水（11:37）～明神水（12:25）～明神ヶ岳山頂（13:10ー13:30）～道標「宮城野 40 分ー明星ヶ岳・宮城野 110 分」（14:52）～宮城野登山口（16:01）～勘太郎の湯（16:19）、伊豆箱根バス（17:05）発ー小田原駅（18:00）

※支部ホームページにも掲載されています。

第 3 回埼玉支部沢登り山行

丹沢「水無川遡行」（10/15・16）

【山行グレード☆☆☆】

山行委員会

平成 29 年 10 月 15 日（月）～16 日（火）

参加者 7 名

コーチ：日本山岳ガイド協会認定登山ガイド II 平川 陽一郎（埼玉支部会員）

丹沢水無川といえば沢登りのメッカ、今は熟年世代となった昔の岳人にとっては青春時代の思い出が詰まった場所です。ここで修業を積んで、勇躍として谷川岳マチガ沢や穂高滝谷に挑んでいったものです。

今回は、水無川の主であった作治さんがこ

よなく愛し、長年にわたり沢登り野郎の面倒を見てくれた作治小屋の皆様（埼玉支部安瀬会員他）にお世話になり、雨模様の中ではありますが 2 日間沢登りを楽しむことができました。

山には様々な顔があり、いろいろな登り方があります。沢登りは極上の和食のような味わいです。



モミソ沢を攀じる



水量たっぷりの水無川本谷 F 2 を背に

今回は、秋の長雨で水無川とは思えないほどの水量で遡行には不向きなため途中から懸垂下降で下山しました。しかし、やはり沢登りは楽しく、今回初沢登りのメンバーもすっかりはまったようです。

プロガイドの正しい指導を受けながら、安全に様々な登山スタイルを楽しむことで山登りはどんどん深みが増します。ご一緒に楽しみませんか。

※支部ホームページにも掲載されています。

10 月月例山行

「天城山(八丁池 1170m・万三郎岳 1406m・
万二郎岳 1320m)」(9/30, 10/1)

【山行グレード☆☆】

山行委員長 高橋 努

1、実施日：平成 29 年 9 月 30 日(土)～10
月 1 日(日)

2、参加者：CL 高橋努、SL 古川史典、吉田
寛治、菊池武昭、稲越洋一、奥田通孝
以上 6 名

3、場 所：静岡県伊豆 天城山 八丁池 1170
m・万三郎山 1406m・万二郎山 1320m

4、行動記録：

9 月 30 日(土) 曇り

11:00 旧天城峠トンネル→11:30 天城峠(上
り御幸歩道)→13:00 昼食→14:25 八丁池
→14:44 分岐(下り御幸歩道)→16:15 林
道車止め→16:45 旧天城峠トンネル→河津七
滝(泊)

10 月 1 日(日) 曇り、ガス

9:30→天城ゴルフ場登山口→9:46 四辻→
11:45 万三郎岳急登→12:16 稜線→12:30
万三郎岳→14:10 万二郎岳→15:30 天城ゴ
ルフ場登山口解散

この 2 日間、下界は好天、山中はガスと全
く違う気象となりました。初日は、往時を偲
び深い森の中を、昭和天皇も歩かれた立派な
御幸歩道感慨深く歩きました。

ヒメシャラの大木などがしげる八丁池まで



八丁池畔にて

の静かな山歩きです。

八丁池は、今は訪れる人も少ない奥山に秘
かに佇む情緒ある池ですが、驚いたことには、
昭和 30 年代には、冬の八丁池で大勢の人が
賑やかにスケートを楽しんでいる写真が案内
板にあったことです。時代の移り変わりを実
感しました。

宿泊は、河津七滝温泉の民宿「うるしや」で
伊豆の山中でありながら大きな金目鯛が夕食
のテーブルにドンと供され、皆ビックリ。旨
かったなあ。リーズナブルな料金で温泉も入
り放題、隠れた A ランクの宿でした。



金目鯛の煮つけ

2 日目は、通常は天城ゴルフ場登山口→万
二郎岳→万三郎岳急→天城ゴルフ場登山口と
言う周回での登山コースの逆を回りました。

静かな深い森、暖かい地域である伊豆半島
独特の植生を楽しみながら頂上での景色を期
待して登りましたが、深いガスと木々に阻ま
れ景色を望むことができず残念でした。初め
ての伊豆の山、ある人は、天城峠と言えば「川
端康成」、ある人は「吉永小百合」、ある人
は「山口百恵」、そんな冗談を言いながらの
山行でした。しかし、小説でしか知らない天
城の山々を肌で感じる事ができ、充実の 2
日間でした。



万三郎岳山頂にて

平成 29 年度日本山岳会南関東ブロック三支部合同懇親山行参加報告 (10/28・29)

会員 青木 正

今回の懇親山行は、昨年まで行っていた 3 支部合同親睦登山が本部の支部再編に伴い新たに南関東ブロックが誕生しその支部である、東京多摩支部、埼玉支部、神奈川支部が年 1 回山を通して会員の交流と親睦を兼ね、2 日間今年度主管の神奈川支部のお膝元「丹沢」の神奈川県山岳スポーツセンターに東京多摩支部 9 名、埼玉支部 3 名神奈川支部 12 名計 24 名が集結し開催されました。



県立波多野戸川公園パークセンター

初日は、先週に続き台風 22 号が襲来しているさなかに「命はぐくむ丹沢」と言う演題で、丹沢資料保存会代表・日本山岳会会員の永森氏のお話を聞き、その後夜が更けるまで懇親が行われました。



永森氏の講演

2 日目は、台風 22 号の影響で予報通りの雨、登山のできる状態ではなく主催者から中止の説明があり朝食後、昼食のおむすびをいただき参加者は「来年こそは晴れの中で会いましょう」と別れました。



来年は晴れの中で会いましょう

公益社団法人日本山岳会埼玉支部は平成 22 年 4 月に公益社団法人日本山岳会の 30 番目に誕生した若い支部です。埼玉県内の山を中心に、全国・海外の山も「山友と登る」を合言葉に、安全第一に明るく楽しく「思い出に残る登山」をしています。

《各種委員会だより》

これからの山行委員会による活動計画

1、忘年山行と忘年懇親会のご案内

早いもので今年も残り2か月余りとなりました。嬉しいことが沢山あった幸せな方も、そうでもなかった方も忘年山行と忘年懇親会で今年を楽しく締めくくりましょう。

お馴染みの正丸峠あたりをハイキングして、お馴染みの秩父農園ホテルに宿泊します。

懇親会とアトラクションおよび恒例のチャリティーオークションもお楽しみに。

日 程：平成29年12月9日（土）～10日（日） 1泊2日

コース：正丸駅から小高山、旧正丸峠歩程5時間グレード☆

忘年懇親会（宿泊）…秩父 農園ホテル 参加費…15,000円

申込先：古川史典事務局長 TEL090-3219-0860 f8008pk@rock.odn.ne.jp

*詳細はホームページやご案内メールにてご確認ください。

2、新年山行と新年懇親会のご案内

まずは、西武秩父線の東吾野駅の前で、白山の祭神である菊理媛命が祀られている、「吾那神社」にて一年の安全登山祈願をします。山上の桃源郷といわれているユガテではロウバイやユズの香りに包まれ、四等三角点のあるスカリ山からは西から北にかけて展望が開け、武甲山などの秩父の山々や関東平野を遠望することができます。下山後は飯能の名料理店「清河園」にて賑やかに1年の山の計をたてましょう。

日 程：平成30年1月13日（土） 日帰り

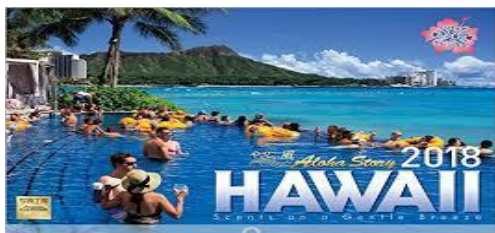
コース：東吾野駅→ユガテ→スカリ山→物見山→高麗駅 歩程約4時間半 グレード☆

新年懇親会…飯能「清河園」 参加費…5,500円

申込先：宮川美知子 TEL090-2648-1947 miyachan-5go@tbb.t-com.ne.jp

*詳細はホームページやご案内メールにてご確認ください。

3、海外ツアー：ハワイ「オアフ島ネイチャートレッキング」



日程：平成30年1月22日（月）～28日（日）

申込先：古川史典事務局長

TEL090-3219-0860 f8008pk@rock.odn.ne.jp

4、2月四季の山（冬山）3月の月例山行は、埼玉支部ホームページに掲載しますので、ご覧ください。

山行委員会からのお願い

一般登山道でもヘルメットを着用しよう！！

北アルプスの事故の四分の一は頭部の負傷だそうです。言うまでもなく頭部や頸椎の負傷は致命傷になります。最近では、ヘルメット着用奨励山域が指定されて、付近の山小屋でもヘルメットのレンタルもしています。しかし、最近では岩場での頭部負傷ばかりではなく、普通の登山道でも転倒や滑落によって頭部を負傷するケースも多くなっているようです。自転車に乗る子供が皆ヘルメットを着用しているように登山者も登山道ではヘルメットを着用したほうが良いのではないのでしょうか。

幸い昔のヘルメットと違い今は 300 グラム程度と極めて軽量になっております。

平川ガイドのお勧めは、5000 円～10000 円程度で軽いもの。ただし、試着して自分の頭にしっかり馴染むものを選んでください。

〈例〉

MAMMUT Skywalker 2(380g)	7000 円程度
MAMMUT RockRider(250g)	10000 円程度
グリベル サラマンダー2.0 (352 g)	8000 円程度
ブラックダイヤモンド ハーフドーム	6000 円程度



これからの安全登山委員会による講演会及び講習会計画

1、安全登山講演会

日時：平成 30 年 1 月 20 日(土)13 時半～17 時(受付 13 時)

講習テーマ：「埼玉県警察山岳救助隊の安全登山講話」

講師：飯田雅彦氏(埼玉県警察本部地域課山岳救助隊連絡指導班)

会場：埼玉会館 3 C 会議室

参加費：500 円

2、安全登山講習会

日時：平成 30 年 2 月 25 日(日)9 時半～16 時(受付 9 時)

講習テーマ「セルフレスキューの実習」

講師：恵秀彦氏・渡邊浩氏

会場：大宮川鍋ビル 8 階

参加費：500 円

※問い合わせ先：安全登山委員会委員長宮川美知子 電話 090-2648-1947

miyachan-5go@tbb.t-com.ne.jp

※10 月 22 日(日)開催安全登山講習会「事故を防ぐ山の歩き方を学ぶ」は台風 21 号の影響で中止となりました。

これからの自然保護委員会による活動計画

第6次シカ食害調査体験会

日時：平成29年 12月16～17日(土～日) 9時～15時

場所：秩父市定峰峠～高篠峠の定峰川北東斜面

集合：東武東上線・JR八高線「小川駅」9.00時

宿泊：鉾泉民宿 かやの湯（寄居町秋山 ☎0493-82-1260）

猟友会員の体験セミナーがあります「鉄砲撃ちの四季」

参加費：10,000円（宿泊費他）

主催：自然保護委員会委員会 事務局・電話 090-2409-6445

メールアドレス：paramitayam.t.t@gmail.com

★申し込みは10月30日(日)で締め切っておりますが

特別枠VIPに若干余裕があります！

※10月8日(日)第2回森づくり&自然観察会（越生町ふれあいの里）は中止となりました。

広報委員会からお願い

メーリングリスト（ML）の使用について

埼玉支部MLを使用して情報を発信・受信する時には以下の点に注意下さい。

(1)送信者は、送信するメール・添付文書の文頭に「このメールは埼玉支部メーリングリストにより送信しています。お問合せ・申し込み等は、発信者・担当者の個人アドレスに送信ください。」と朱色で書き入れて下さい。

い。このメールに返信しないでください。」と朱色で書き入れて下さい。

(2)受信者は、受信メールに返信・送信するのではなく、送信者の個人メールアドレスに返信・送信して下さい。



埼玉支部会員/準会員/会友在籍者数及び異動

会員	134 名	準会員	1 名	会友	11 名	計	146 名
----	-------	-----	-----	----	------	---	-------

【入 会】

会 員			準会員			会 友		
16202	轟 涼	6 月	A0075	岡山 明子	7 月			
16209	小島 修	6 月						

【退 会】

会 員			準会員			会 友		
14883	石塚 昌孝	8 月						

事務局からのお知らせ・お願い

1、 山岳保険（任意）への加入について

支部規約第 7 条第 3 項において「支部会員、準会員及び支部会友は山岳保険に加入しなければならない。」とあります。そこで、未加入の場合は、加入をお願いいたします。加入されましたら、その加入保険会社等の名称を事務局迄ご連絡下さい。

事務局：事務局長古川史典 f8008pk@rock.odn.ne.jp 090—3219—0860

2、支部報等の E メールないしホームページでの閲覧する方法の変更について

4 月にお問い合わせのハガキを郵送いたしました、回答のない方がおられます。早急にご回答いただければ幸いです。

回答先：事務局長古川史典 f8008pk@rock.odn.ne.jp 090—3219—0860

3、平成 29 年度支部会費納入について

支部会費未納の方は、次の支部口座へお振込み下さい。

(1)会費：①会員 2,000 円 ②会友 3,000 円③家計を同じくする者 1 人 1,500 円

(2)払い込み先：郵便局

口座記号： 00140—7—

口座番号： 374281

加入者名： 公益社団法人日本山岳会埼玉支部

(3)お問い合わせ：会計担当高橋努 電話 090-2906-4356 tom-tak@bk9.so-net.ne.jp

4、住所、電話、メールアドレス等変更がありましたら事務局にご連絡下さい。

安全・安心・快適登山のための OnePoint アドバイス (その 1)

「ご自身に合った登山計画を立てましょう。」

会員・日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ 平川陽一郎

平成 28 年の山岳遭難事故の発生件数は 2495 件遭難者 2929 人、目的別にみると登山が 71.1% と最も多い。事故原因の順位は、道迷い 41.6%・滑落 17%・転倒 16.1% を占めています。

毎年遭難原因の 1 位になる道迷いの主な原因は、登山計画を立てていない事が原因です。近年良く耳にする「登山届を出しましょう」これには常に違和感を感じています、計画を立て、それを書面にして提出する、これが登山届です。

それを出していないのは、計画を立てていない＝即ち、ルートを判っていない&自分の力量を理解していない事です。常に計画を立てましょう、基本は逆算です。

家に帰る時間を設定し、下山口、山頂、登山口、自宅を出る時間、前夜の就寝時間となります。



「コースタイムと競う必要はありません」ご自身の歩行力に合わせて計画を組んで下さい。今の自分の歩行力を知ることは安全登山の第一歩です。歩行力が無ければ 1 日行程が 2 日に、力があれば 2 日行程が 1 日になります。現在のご自身の歩行力に合わせて計画を立て、山歩きを楽しんで下さい。



公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 22 号平成 29 年 (2017) 11 月 1 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 松本敏夫

事務局：350-0312 埼玉県比企郡鳩山町鳩ヶ丘 1-25-10 古川史典方

電 話：090-3219-0860 Email: f8008pk@rock.odn.ne.jp

埼玉支部ホームページ：http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html